

Rakuyomi

利上げ打ち止めがいよいよ視野に入ってきた米国 ～パウエルFRB議長は年内の利下げの可能性を否定～

利上げを継続も、近く停止する可能性を示唆

米FRB(連邦準備制度理事会)は、3月21・22日のFOMC(連邦公開市場委員会)で0.25ポイントの追加利上げを決定し、政策金利(FFレート)の誘導目標を4.75～5.00%としました。米銀の相次ぐ破綻を受け、利上げ見送りとの見方も一部にあったものの、結局、9会合連続の利上げとなりました。ただし、FRBは声明で、「いくらかの追加引き締めが適切となる可能性を見込んでいる」として、利上げを近く停止する可能性を示唆しました。

銀行破綻が信用収縮を招けば、利上げと同等ないしそれ以上の引き締めに匹敵

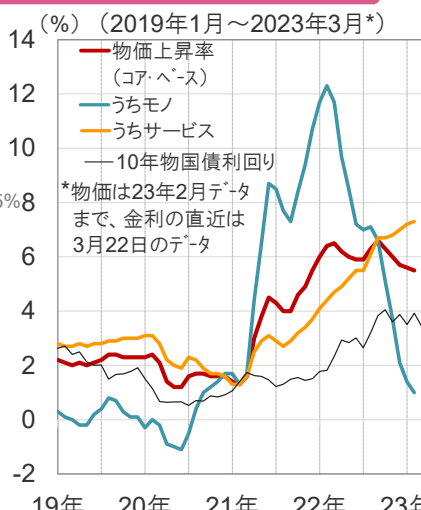
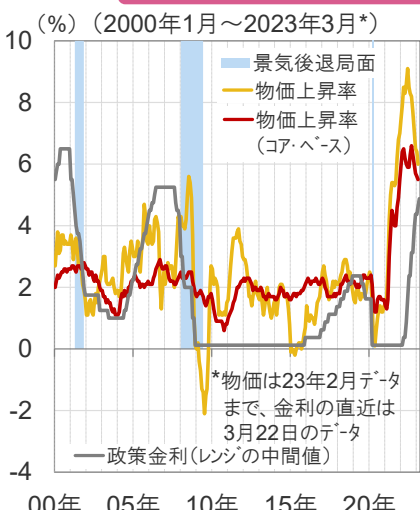
パウエル議長は会見で、銀行破綻を受け、利上げ休止も検討したと明かしました。しかし、当局の対応を高く評価したほか、物価や労働市場に関する指標が想定以上に強かったとして、利上げ継続を決めたと説明しました。一方で、銀行破綻が信用収縮を招けば、利上げと同等かそれ以上の引き締めに匹敵するとして、「継続的な利上げが適切」としてきた声明文を今回、変更したと述べました。

そして、今回、FOMC参加者による今年末の政策金利の予想は5.1%で据え置かれ、あと1回の0.25ポイントの利上げで達する状況となっています。

インフレは高水準、労働市場はなお逼迫

ただし、下のグラフが示す通り、物価上昇率は、モノの価格上昇率の鈍化を背景として、鈍化しているものの、サービス分野では上昇率の加速が続いており、全体では目標の2%を大きく上回っている。

米国の消費者物価上昇率(前年同月比)と金利の推移



米労働市場の主要指標の推移



米労働統計局、全米経済研究所(NBER)、FRBなどの信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび見通しであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものとあり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。